

## 研究名

抗菌薬適正使用支援による経口抗菌薬使用量の低減への効果

### 1. 研究の対象

2013年1月から12月、2020年1月から12月までに当院院外処方された経口抗菌薬で、AMR対策アクションプランの成果指標に設定されているセファロスポリン系、マクロライド系およびフルオロキノロン系抗菌薬を評価の対象とした。

### 2. 研究目的・方法

2016年4月に厚生労働省より薬剤耐性(Antimicrobial Resistance:AMR)対策アクションプラン(2016-2020)が(以下、AMR対策アクションプラン)が公表され、AMR対策を推進するにあたり実施すべき事項が取りまとめられた。2016年から2020年の5年間において、教育や啓発、調査や監視、感染予防や管理、抗微生物剤の適正使用等の6つの分野に関する目標や戦略及び具体的な取組が盛り込まれ、成果指標が設定された。特に抗微生物剤の適正使用は、AMR対策に不可欠なものとして位置づけられており、医療機関における抗菌薬適正使用支援(Antimicrobial Stewardship: AS)は、これを促すものとして期待されている<sup>1,2)</sup>。また、AMR対策アクションプランを基に策定された抗微生物薬適正使用の手引き(第三版)では、特に医療機関の外来診療における経口抗菌薬の適正使用の推進が求められている。当院ではASを実施してきたため、当院の外来部門におけるASの効果を検討することを目的として、各経口抗菌薬の使用量を評価し、AMR対策アクションプランの成果指標との比較を行った。2020年および2013年におけるセファロスポリン系、マクロライド系およびフルオロキノロン系抗菌薬の使用量を調査し、各系統の抗菌薬使用密度(Antimicrobial Use Density:AUD)を算出した。また、それぞれ2020年の2013年に対するAUDの増減を算出し、AMR対策アクションプランの成果指標と比較した。

### 3. 研究に用いる情報の種類

電子カルテ患者情報(後向き研究)

### 4. 外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

### 5. 研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 松本 勝城

### 6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問い合わせください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 松本 勝城